

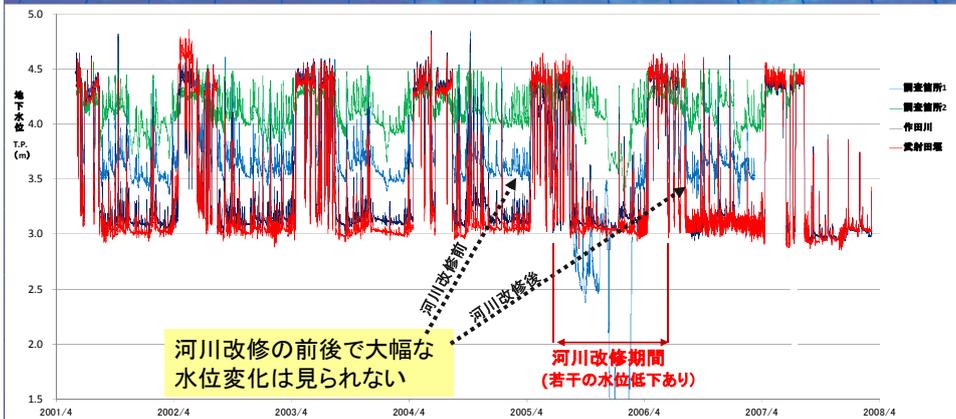
8. 床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

(2) 事業実施による環境の変化

食虫植物群落（湿地）の保全

事後の状況

成東・東金食虫植物群落における地下水位、河川水位観測



48

8. 床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

(2) 事業実施による環境の変化

河川連続性の確保～武射田堰改築に伴う魚道の設置

武射田堰の改築に伴い、河川の連続性を確保するため、魚道を設置



49

8. 床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

(2) 事業実施による環境の変化

事後評価

動植物の生息・生育環境の確保

- ・水際植生を再生し、生物の生息環境を確保に努めた。

重要種等の生育地の保全

- ・自生地については、断面形状の工夫等により生育環境を保全に努めた。
- ・作田川改修後も食虫植物群落付近の地下水位を維持することができた。

河川の連続性の確保

- ・魚道を設置し、河川の連続性の確保に努めた。

50

8. 床上浸水対策特別緊急事業の事後評価

(3) まとめ

① 事業の効果の発現状況

- 投資効果あり（費用対効果8.2）

② 事業実施による環境の変化

- 工事による環境への影響に配慮し、環境保全に努めた。

51

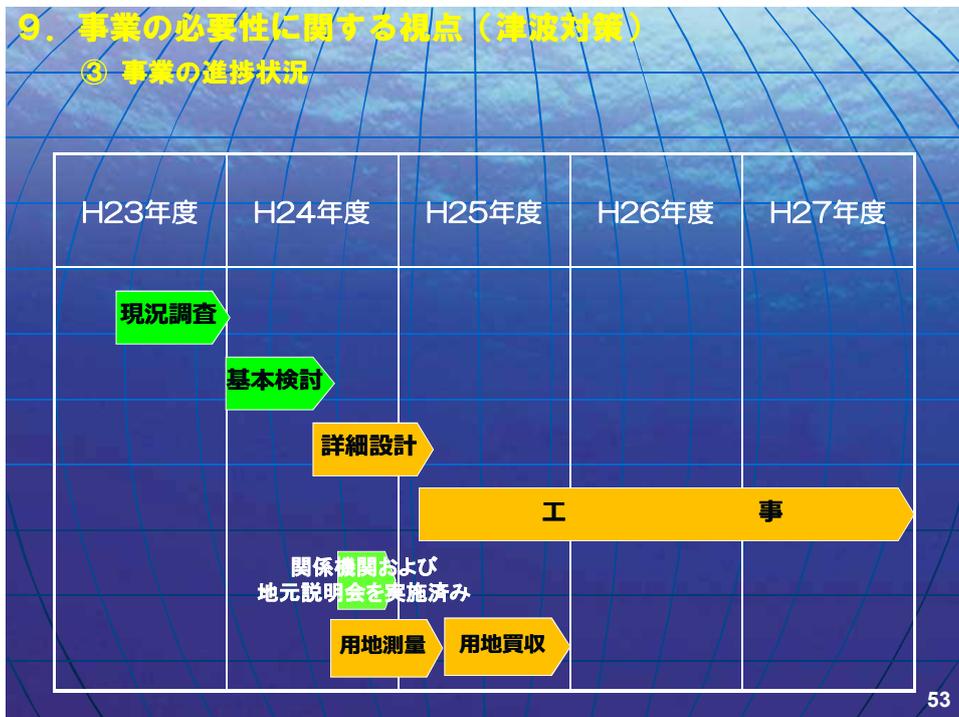
9. 事業の必要性に関する視点（津波対策）

② 事業の投資効果



9. 事業の必要性に関する視点（津波対策）

③ 事業の進捗状況



9. 事業の進捗の見込みの視点（津波対策）

- 地元説明会の開催の結果
津波対策における地元意識が高く
早期完成を望んでいる。

54

9. コスト縮減や代替案立案の可能性の視点（津波対策）

津波防御方式

- 津波防御方式は、「堤防方式」「津波水門方式」
- 「津波水門方式」は、地震時に確実に閉鎖できる施設や、津波発生時における操作員の安全性の確保、さらに定期的なメンテナンスなど多くの課題がある。



河川津波対策には「堤防方式」を採用。

55